

# 認知症の人の経過に沿った連携と 支援体制づくり ～認知症の人と家族を支える地域づくり～



京都府舞鶴市福祉部  
高齢者支援課相談支援係  
児玉 智子



# 舞鶴市の概要

軍港から発展した東舞鶴、城下町であった西舞鶴  
由良川沿いに広がる加佐  
漁村・農村・市街地・住宅地が入り混じり、地域ごとに特性が違う。



かまぼこ  
万願寺とうがらし  
肉じゃが  
岩ガキ・とり貝  
赤レンガパーク  
引揚記念館

## 京都府舞鶴市 (H 28. 4)

人口 85,121 人

高齢者数 25,783人 ※高齢化率 30.29%

要介護認定者数 (第1号) 4,755人 ※要介護認定率 18.4%

認知症高齢者数 2,805人 (日常生活自立度Ⅱ以上) (H26.3)

介護保険料基準額 第6期 63,520円 (5,293円／月)

地域包括支援センター 7か所 (直営 1 ・ 委託 6)

認知症疾患医療センター (舞鶴医療センター) 1 か所

精神科単科病院 (東舞鶴医誠会病院)

総合病院神経内科 (舞鶴赤十字病院)

医院 (4か所)

### 【体制】

高齢者支援課相談支援係 (事務職3 + 保健師6)

(直営地域包括支援センター 4)

認知症地域支援推進員

# 舞鶴市第6期高齢者保健福祉計画 (H27～H29)

施策目標 「生き生きとした長寿社会づくり」  
地域包括ケアシステムの構築

- 1 地域での自立生活支援の仕組みづくり
- 2 高齢者の社会参加と生きがい・健康づくり
- 3 介護予防の充実
- 4 適正な介護サービスの提供と家族支援
- 5 介護サービスを担う人材の確保
- 6 認知症高齢者支援体制の整備

# 6 認知症高齢者支援体制の整備

## （1）認知症の正しい理解と早期発見・早期対応

- ①認知症サポーター養成講座等の開催・認知症ケアパスの普及
- ②認知症初期集中支援チーム派遣事業
- ③初期認知症対応型カフェ推進事業

## （2）認知症予防の取り組みの推進

- ①認知症予防プログラム実践事業

## （3）認知症高齢者に対する対応力の向上・家族支援の充実

- ①認知症介護家族交流会
- ②認知症医療連携実務担当者会議
- ③認知症高齢者等徘徊SOSネットワーク

## （4）認知症高齢者対応サービスの充実

# 認知症地域支援推進員の役割

## ◎認知症施策全般に関与

ビジョン「認知症の人と家族を支える地域づくり」

## ○各施策・事業担当者・関係者のつながりをつくり、 目標を共有できるようにすること

→認知症医療連携実務担当者会議

認知症初期集中支援チーム検討会議・カフェ担当者会議

## ○認知症施策の課題把握・施策立案

ガイドブック（ケアパス）作成・認知症初期集中支援  
チーム立ち上げ

## ○認知症施策の普及・周知

# 平成23年度 モデル事業終了→地域支援事業で実施

事業は、たくさんこなしたが・・・

## 23年度 認知症対策事業計画「認知症の人と家族を支える地域づくり」



# ガイドブックの中に…認知症の経過に沿った支援体制(認知症ケアパス)

## 舞鶴市にある資源がつながりあって一人ひとりを支えるために

発症期

症状多出期

身体症状  
複合期

ターミナル  
期

サロンdeすとれっち

居宅介護支援事業所、介護保険、福祉サービス

認知症予防プログラム

カフェ

小規模多機能・グループデイ・グループホーム

認知症初期集中支援チーム

老人保健施設・特別養護老人ホーム

かかりつけ医・地域包括・市役所・民生委員

かかりつけ医往診・訪問看護

かかりつけ医・認知症疾患医療センター・専門医療機関

舞鶴医療センター・東舞鶴医誠会病院(認  
知症治療病棟)

認知症介護家族のつどい

日常生活自立支援事業

認知症サポーター養成講座

成年後見制度

舞鶴はいかい老人等SOSネットワーク

病気の種類や身体状況などにより、経過は異なり、必ずしも、この通りに経過をたどるわけではありません。

	発症前-MCI認知症予備軍	発症期	症状多出期
本人の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>●物忘れの自觉がある。</li> <li>●「あれ」「それ」「あの人」等という代名詞が多く出てくる。</li> <li>●何かヒントがあれば思いだせる。</li> <li>●同じ事を何回もきく。</li> <li>●置き場所がわからず、探し回る。</li> <li>●約束したことを忘れる。</li> <li>●疲れる。音や光に敏感になる。</li> <li>●不安・いらいら・あせり・抑うつ・自信喪失。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●料理がうまくできない、ATMが使えない。</li> <li>●「物を盗られた」という。</li> <li>●買い物の際小銭が払えない。</li> <li>●話を取り繕って話す。</li> <li>●考えるスピードが遅くなる。同時に複数のことが処理できない。</li> <li>●気持ちを言葉でうまく伝えられない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●季節に応じた服を選べない。</li> <li>●年齢を実感より、若く思う。</li> <li>●外出先から家に戻れない。</li> <li>●トイレの場所を間違えて排泄する。</li> <li>●夕方～夜間にかけて症状悪化の傾向がある。</li> <li>●食べ物があるだけ食べてしまう。</li> </ul>
記憶面	最近のことを覚えられない。	体験したことを忘れる。	いつどこで何をしたかなどの出来事を忘れる。
見当面		時間や日にちがわからなくなる。	季節・年次がわからなくなる。
対応のポイント	<p>認知症予防のための生活に心がけましょう。</p> <p>認知症を発症しても、進行を遅らせるという点では、生活の工夫は同じです。</p>	<p>大事な事や出来事をメモで書きとめる。 書き場所や取り扱いを張り紙にしておく。</p> <p>ゆっくり、短いことはじめ、一つずつ書く。</p> <p>時間の見当がつく工夫を デジタル時計や季節感のあるカレンダー。外の景色が見える。 「あはようございます」「こんにちわ」などのあいさつを。</p> <p>不快な表情や細菌はNG 人のしぐさや表情を読む力はむしろ敏感になります。</p> <p>「読みなし學習」できることとはさせない 日付や覚えてもらうとヒントを繰り返し、試行錯誤させると余計に混乱します。 日付などは、「今日は何日です」と最初から正しい答えを示す方がベストです。</p> <p>できることをたくさん残していく。生活の中で役割を。小さい孫の相手、草取り、花の世話など長年の知識や経験をもとにできることがまだまだある時期です。</p>	<p>説得より、その場の納得 理解できないので、理論での説得は無理。いったん気持ちを受け止め、一緒に行動するなどしましょう。 そのうち、忘れて気持ちも変わることもあります。</p> <p>昔とった忤抗を アルツハイマー型認知症の場合、身体で覚えているような手続き記憶はあまり障害されません。趣味や仕事で培ってきた得意分野を生かすと昔の記憶がよみがえり、心の安定につながります。</p> <p>昔の思い出に触れたり、なじみの歌に 忘れない出来事や思い出に触れると、それがえり、今の自分と過去の自分につながり不安が軽減されます。</p> <p>自然の風や光に満度にある。 自然の風景はここをリラックスさせてくれますし、日中の活動量が増えると良質にもつながり思い出の風景を散歩するだけでも、昔の所作がよみがえり、安心につながります。</p>
ご家族へ	<p>カフェでは、 物忘れの心配な方の 予防や進行阻止のための 楽しい活動も行っています。 気軽にご利用して 下さい。</p>	<p>認知症の病態や介護について勉強しましょう。 認知症を引き起こす病態により、種類も介護の方法も異なります。また、間違った対応や介護は、本人の症状を悪化させる原因にもなります。認知症を正しく理解し、関わる人がうまく対応することで、だやかな経過をたどることも可能です。</p> <p>近い親戚や本人の親しい人には、病気のことを伝えておきましょう。 記憶障害の影響で、約束を忘れたたり、電話の用件が伝えられないこともあります。また、病気のことを知らないために、心もとない言葉をかけられ、本人が傷ついている場合もあります。病気であることを理解してもらうことは大切なことです。</p>	<p>介護サービスを利用したり、家族の集いの場を利用。 看護管理や入浴・リハビリなど介護保険制度を使って利用できます。家族が休息する時間を作り、ご本人が家族以外の人の介護に耐えておく、いざといふ際の心配をします。戸惑うような出来事が重なって、家族が最も苦しい時期です。同じ立場の人の集まり(家族の集いやカフェなどで、話を聞いたり)、自分の気持ちを話せる場を持つと少しは楽になると思います。介護の能力や意欲をうまく借り、適度の負担にならないようにしましょう。</p> <p>今後の生活設計(介護、金銭管理、財産等)についての備えをしておきましょう。</p>
支援体制	<p>認知症予防のための 「脳を鍛える わいわい活動」 本人家族の自由な集まりの場: (あい) カフェ紅茶・けんき元気カフェ</p> <p>認知症が心配な時の相談先:かかりつけ医、地域包括支援センター、民生委員、市役所(介護保険手続き等)</p> <p>診断を受けるには:かかりつけ医、認知症疾患医療センター、専門医療機関</p> <p>家族同士の情報交換、交流、学習の場「認知症介護家族の集い」</p> <p>日常生活自立支援事業(社会福祉協議会)</p> <p>幼稚園や職場で認知症の正しい理解「認知症セミナー養成講座」</p>	<p>認知症介護の相談も! 小規模多機能型介護施設・グループホーム</p> <p>老人保健施設・特別養護老人保健施設</p> <p>精神医療センター、東横精神医療会病院認知症治療病棟</p> <p>行方不明への備え「舞鶴はいかい老人等SOSネットワーク」(舞鶴警察署)</p>	

が、この先の経過の中で、大まかな位置を知り、今後を見通す参考にして下さい。

	身体症状複合期	ターミナル期
る。	<ul style="list-style-type: none"><li>●歩行が不安定になる。</li><li>●着替えの動作ができない。</li><li>●声かけや介護を拒む。不快な音を立てる。</li><li>●尿意や便意を感じにくくなる。</li><li>●飲み込みが悪くなる。食事に介助が必要。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●言葉が減る。</li><li>●日中うつらうつらする。</li><li>●口から飲食物が入らない。</li></ul>
	過去に獲得した記憶を失い、若い頃の記憶の世界で生きる。	
	親しい人や家族が認識できなくなる。	
	<p>◎身体管理を十分に</p> <p>体温が変化しやすい時期です。水分が適切にとれているか?必要な食事がとれているか?便祕や下痢などはおこしていないか?発熱していないか?など身体管理にも注意をするようにしましょう。身体状況の悪化がBPSDの原因になることも少なくありません。体調に変化があれば、早めに主治医に相談しましょう。</p>	
に親しむ	<p>◎スキンシップを大切に</p> <p>ことばがうまく出なかったり、自分の意思を伝えにくくなります。また、声かけの理解も十分できないので、手を握る、背中をさするなどスキンシップを心がけ、安心感を与えるようにしましょう。</p>	
ります。	<p>◎言葉以外のサインを大切に</p> <p>ことばがうまく出なかったり、自分の意思を伝えにくくなります。表情や手のしぐさなどから気持ちを読み取るように意識しましょう。</p>	
た は え く	<p>◎認知症が進行した後の備えを</p> <p>終末期の医療指置や紫量補給や医療などの程度行うか、入院するかどうかなど、最期の時期をどこで迎えるかも含めてできるだけ本人の視点に立って相談しておきましょう。</p>	
「デイ・グループホーム 老人ホーム	かかりつけ医往診・訪問看護	
成年後見制度		

永田 久美子 「本人と家族のためのセンター方式ガイド認知症ケアをもっと“楽”に」により一部引用

## 【配布先】

市役所窓口  
地域包括支援センター  
認知症疾患医療センター  
開業医  
認知症サポートー養成講座の  
テキストとして

# まいづる認知症相談ガイドブック (認知症ケアパス)

## <目的>

認知症の本人・家族に向けて、相談支援にかかる関係者が  
共通した情報提供が出来るようすること。

## <どうして作成する事になったか?>

- \* 窓口で介護申請に来た方に対して、  
市役所職員が充分な説明が出来ない。
- \* 家族が認知症についてどうしていいか  
分からず困っている現状があった。  
(ケアマネジャーアンケートより)
- \* これからが理解できれば、家族も戸惑  
わなくてすむ。



# 作成の経過

「認知症医療連携実務担当者会議」で提案・内容を検討  
※既存の会議を活用

## メンバー

舞鶴医師会

舞鶴医療センター（認知症疾患医療センター）

東舞鶴医誠会病院

京都府老人福祉施設協議会

舞鶴市社会福祉協議会

まいづるケアマネジャー連絡会

京都府中丹東保健所

地域包括支援センター

舞鶴市高齢者支援課



経過に沿って、  
それぞれの役割を  
共通理解

年3回の実務担当者会議・年1回の連携協議会にて、検討

# 内容

## 1. 認知症ケアの大原則

## 2. 認知症の基礎知識

認知症とは

老化による物忘れと認知症のちがい

認知症の種類

認知症の症状～中核症状と行動・心理症状 (BPSD)～

## 3. 認知症の診察・治療・リハビリ

## 4. 認知症こんなときどうする？Q&A

## 5. 自分らしく生きるために

## 6. 舞鶴市内の認知症に関する取組

## 7. 相談窓口・関係機関

## 8. 認知症を予防する生活習慣

## 9. 認知症の経過と対応 (認知症ケアパス)

# ガイドブック（ケアパス）を作成して

## ◎評価指標として使える

- ・認知症のどの過程においても、舞鶴市で支援体制が整っているか？
- ・どこに連携ができていないのか？ケアパスにはあっても、機能していない部分は？

## ◎初期の段階では、なかなかこれからの詳しいことまでは言えないと使ってみて実感した。そのステージごとに必要な情報を家族・本人と共有できるようにしたい

## ◎認知症疾患医療センター、地域包括支援センターなどの相談場面で、活用。同じツールを使うことで、バラバラの情報を伝えないですむ。

27年改訂版を作成

# 関係機関による意識共有(チーム・カフェスタッフと関係者の連携)

## 認知症医療連携実務担当者会議

認知症の本人や家族にかかる保健・医療・福祉・介護の関係者が集まり、意見交換や情報交換、事例検討を通じて、連携を強化し、舞鶴市における認知症施策の現状や課題を検討し、推進を図ること



定例会議 第3木曜日

14時～15時30分

実施日および場所

偶数月(10・12・2月)舞鶴医療センター

奇数月(11・1・3月)東舞鶴医誠会病院

### 内 容

・認知症事例検討会

・初期集中支援チーム対応ケース会議

・認知症初期集中支援チーム検討会議

・その他、認知症地域支援体制構築に関する内容の協議・検討

# キャラバンメイト（啓発）のつながりをつくる

H23年度から、年1回キャラバンメイト活動交流会を実施

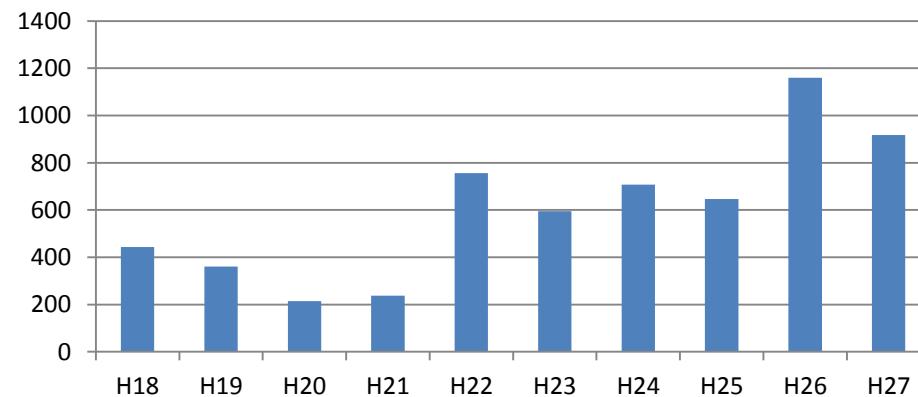
舞鶴市の認知症サポーター養成講座の実施状況や活動について交流  
地域包括・事業所・地域住民がつながる…



自主的にサポーター養成講座に取り組む事業所が増加。

小・中学校、スーパー、銀行・警察への講座開催へ  
個別ケースを取り巻く人向けに講座の開催

認知症サポーター養成数  
H27末6,039人



キャラバンメイトだけにこだわらない。地域への認知症の啓発活動をしている人たち  
にも参加を呼び掛け。

# 地域のつながりをつくる

## ～地域の自主的な運動の場～ サロン de すとれっち

月2回運動指導員さんと、簡単な体操をします

※費用：半年間無料　半年以降は、1,000円/回の団体負担



# 運動の自主グループ

認知症になっても、  
続けて参加しやす  
い場を



病院の職員が参加  
し、認知症の啓発  
も！

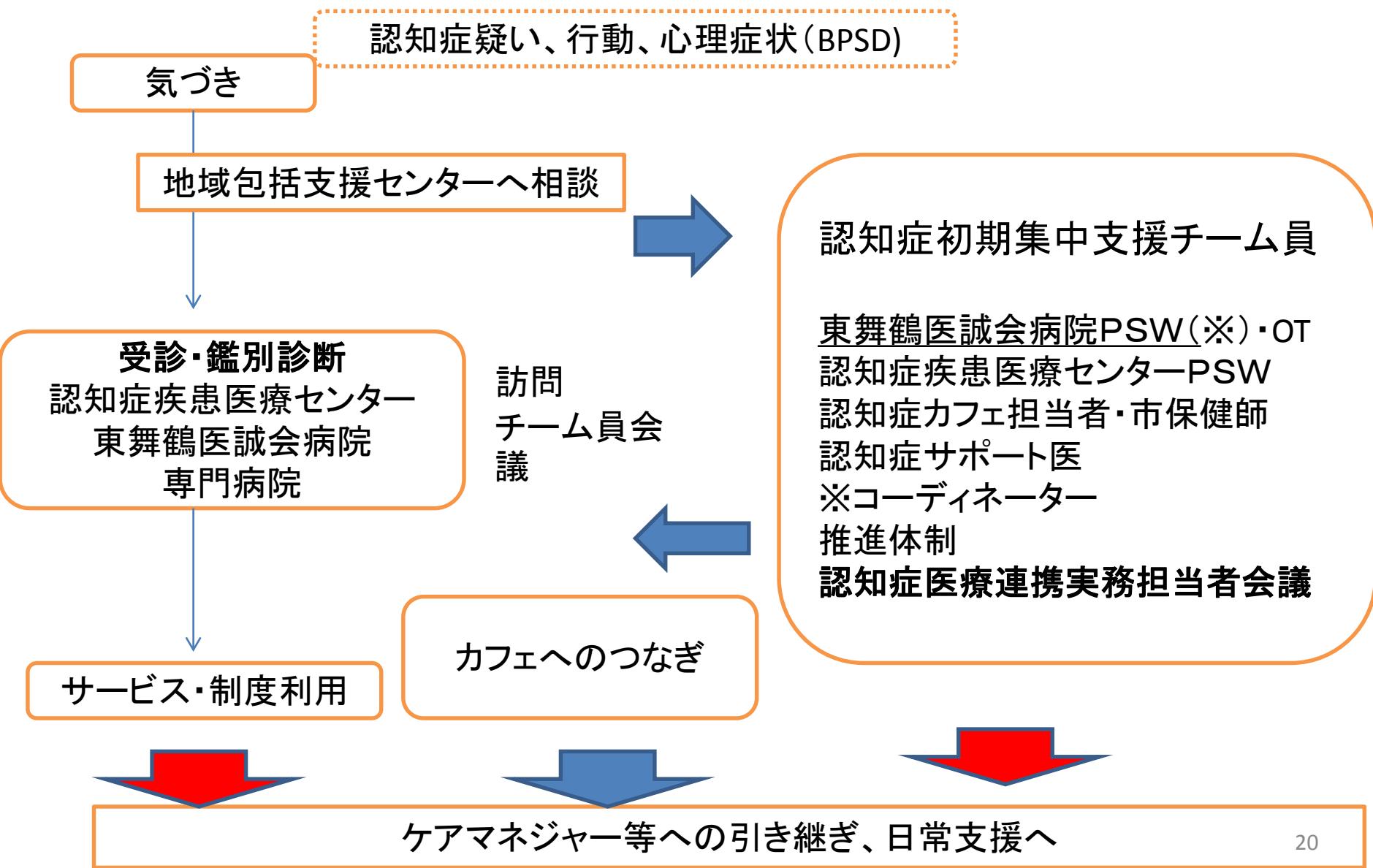
女性で認知機能  
該当者の参加  
が増えている。



集まりの場は、地域の集会所だけではありません。  
公営住宅の集会所、小学校の体育館、スーパーの会  
議室、小規模多機能介護事業所の2階スペースなど、  
地域を見渡せば……どこかにある

# 認知症初期集中支援チームの設置(H25~)

当事者がスムーズに相談・医療・介護、地域の支援を受けられるしくみをつくる



# チーム稼動までの流れ

## ①事前ワーキング会議

1回目 意義や体制について、共通理解

2回目 アセスメント票や記録、媒体等の検討

3回目 認知症高齢者の心理面について、勉強会

## ②11月23日 市民認知症啓発事業「映画上映会」

チラシの新聞折り込み

医師による簡単認知症チェック

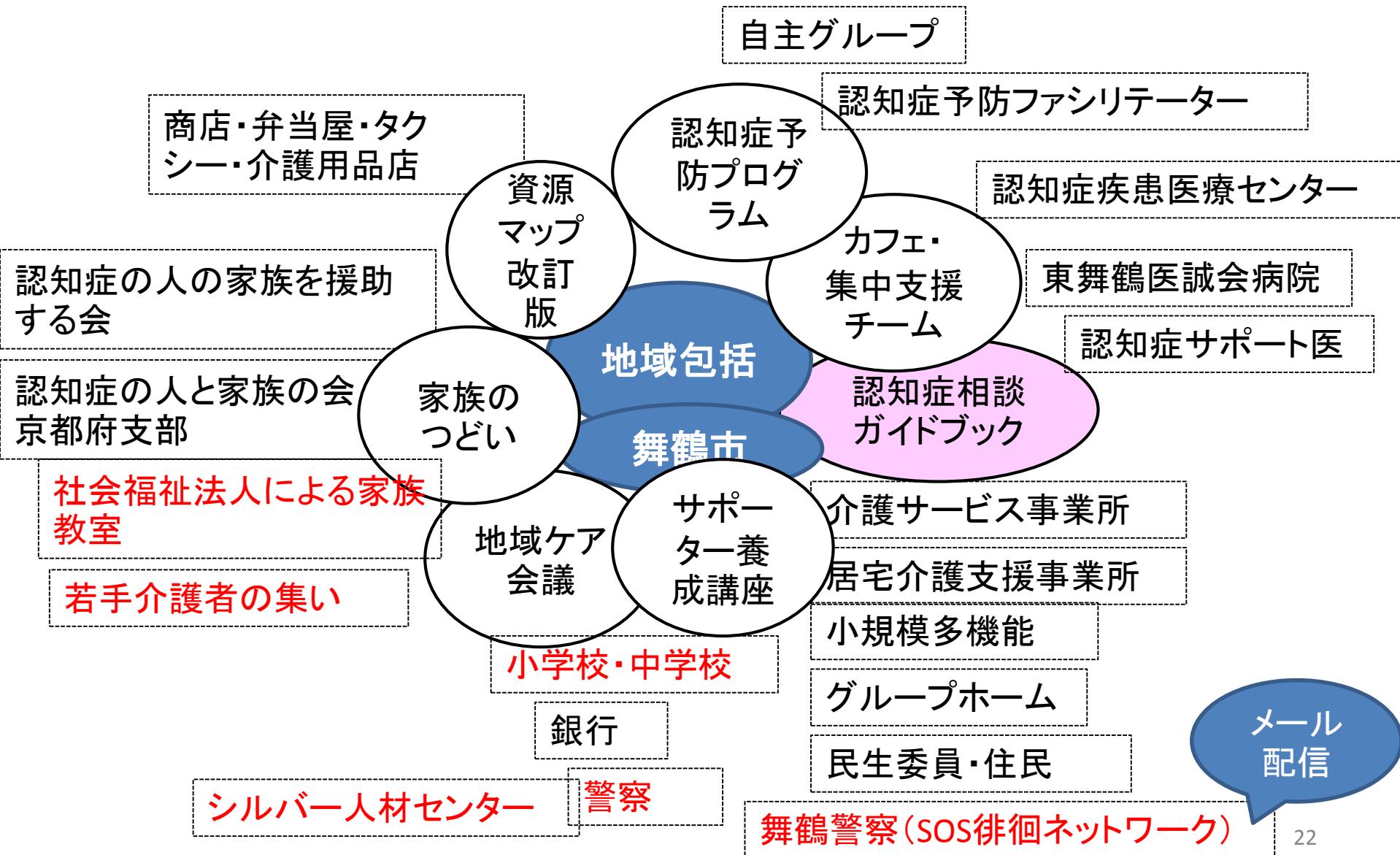
本人からのメッセージ

## ③「認知症疾患医療連携実務担当者会議」で事業検討・評価



# これまでの経過とつながった資源

## 26年度(地域支援事業、府地域包括ケア総合交付金)



# 支える人を育てる

## 1. 認知症予防ファシリテーター養成(H23~)

認知症予防プログラム「脳を鍛えるわいわい活動」の支援者

## 2. 転倒予防ファシリテーター養成(H23~)

転倒予防エクササイズの指導者

## 3. はつらつサポーター養成(H27~)

地域で行う運動の場「サロンdeすとれっち」指導者

住民が住民を支える仕組みづくり。  
支える人を支えるのが私たちの仕事

生活支援・介護予防の事業の中で、認知症の人も暮らしやすい  
システムを作ること＝地域包括ケアシステム

○各関係機関の役割分担がしてきた。

対応力向上のための認知症研修・事例検討  
市→認知症疾患医療センターが実施

○家族支援

地域の社会福祉法人による介護者向け講座  
若手介護者の集まり「えくぼの会」

○啓発

認知症サポーター養成講座

講師役→企画・実施へ。学校など広がり

○対応困難→初期対応のあり方の検討へ

# 途切れないケアを目指して

発症予防・  
遅延

早期発見

見守り



認知症疾患  
医療センター



● 地域の運動グループ



# 推進員として活動の課題

## ◆早期に診断された人の支援が、まだ、途切れている。

初期集中支援チーム・カフェがあるだけで、機能しきれていない。早期のケアが確立していない現状。→事例検討の場を通じて、初期の支援のあり方をつくっていく。

## ◆医療との連携

かかりつけ医で認知症をみるケースも増えてきているが、介護との連携が十分できていない。

→在宅医療・介護連携推進会議

→実務担当者会議に、認知症サポート医

への参加を呼びかけ



★マニュアルに縛られすぎないように・・・

自分の地域のあるものを使って、自分の地域のやり方を会議などは、既存のものを活用。

★共通の目的をもった人たちが、会って話せる機会を作ること。いいなと思った取り組みは、発表する場や表舞台へだしていく。広報紙への掲載、地域の出前講座等でどんどん紹介

★できてないと思い込んでいませんか。

一步下がって見てみましょう。地域の中へ入れば、すばらしい取り組みがあるはずです。

気持ちのある人、協力してくれる人はいます。